

令和8年度 全国学力・学習状況調査結果について

東大阪市教育委員会 学校教育部 学校教育推進室

文部科学省が毎年度行っている全国学力・学習状況調査について、東大阪市立小中学校・義務教育学校の結果をお伝えします。(調査目的等の概要はP9に記載)

◆今年度の結果概要

<教科>

小学6年生/義務教育学校6年生(国語・算数)、中学3年生/義務教育学校9年生(国語・数学・英語【CBT】)を対象に調査が行われました。本市では、いずれの教科も全国平均正答率にはとどきませんでしたが(表①)、中・義務教育学校の数学については、平均正答率の対全国比において、昨年度からわずかに改善が見られました。

また、すべての教科において、知識及び技能に関する意味や概念を理解することや、目的・課題意識をもって必要な情報を読み取り、他者との対話を通して、自分の考えを文章等でよりよく表現する力に課題が見られました。

表①<平均正答率> ※()内の値は平均正答数

教科		平均正答率(平均正答数/問題数)	
		東大阪市	全国
小学校	国語・6年	54% (7.0/13)	60.9% (7.9/13)
	算数・6年	50% (8.1/16)	56.4% (9.0/16)
中学校	国語・3年	58% (8.7/15)	63.9% (9.6/15)
	数学・3年	50% (8.0/16)	57.0% (9.1/16)
	英語・3年	平均正答率なし (3.3/7)	平均正答率なし (3.7/7)

※中学校・英語(CBT方式)による調査は、生徒によって異なる問題となっており、教科全体の平均正答率の発表はありません。

※中学校・英語は3技能(読む・書く・話す)の共通問題(7問)の結果です。

<児童生徒質問調査>(小学校73問・中学校80問)

小中学校ともに、「自分には良いところがある」と回答した割合は、昨年度よりもわずかに減少しましたが、依然として高い傾向にあり、国との差は縮まりました。「将来の夢や目標を持っている」「先生は、自分の良いところを認めてくれている」と肯定的に回答している割合は、小中学校ともに全国値を上回っています。

また、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「学びを次の学習や実生活に生かすことができる」と肯定的に回答した割合や、ICT機器を情報整理の場面で有効活用できると感じている割合も全国より高く、自己調整しながら他者と協働的に学ぶ学習が進みつつあります。

一方、「家庭学習の時間」が依然として少ない傾向ですが、昨年度よりも改善がみられます。

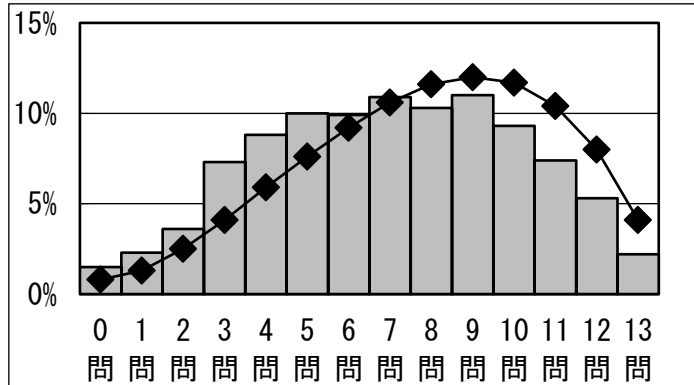
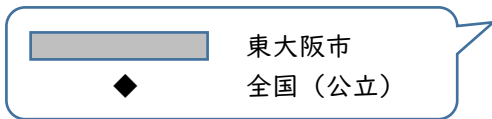
<今後の取り組み>

各教科等において育成すべき資質・能力について、知識及び技能を概念的に理解したり、思考力、判断力、表現力等を発揮したりする「子どもの姿」として明確に見据え、その実現をめざした授業づくりを推進します。その際、「個別」「協働」「全体」の学習形態を効果的に組み合わせ、1人1台端末やクラウド環境、AIドリル(Qubena)を活用した学習環境と、教師による子どもの丁寧な見取りと支援を充実させ、子ども主体の学びを追求していきます。

これにより、誰一人取り残すことなく、子どもたちの多様な個性を最大限に生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ってまいります。

小学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	7.0/13	54
全国（公立）	7.7/13	60.9



分類		区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
				東大阪市	全国（公立）
学習指導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	57.4	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	45.8	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	—	—
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	59.7	65.8
		B 書くこと	2	39.0	45.7
		C 読むこと	2	61.8	65.9
評価の観点		知識・技能	6	53.5	62.0
		思考・判断・表現	7	54.4	60.1
問題形式		選択式	9	55.6	61.9
		短答式	2	51.6	62.6
		記述式	2	48.9	54.9

課題がある点

●根拠として必要な情報を資料から引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

大問2四 平均正答率 東大阪市 23.4% 全国 33.4%

<正答に必要な条件>

「すずしく過ごせる衣服の色」について考えたことを、次の条件を満たして書く。

- ①資料から「本の題名」「本文の一部」を抜き出す。
- ②抜き出した部分をかぎ（「 」）でくくる。
- ③すずしく過ごせる衣服の色について考えを書く。
- ④140字以内で書く。

<多かった誤答及び誤答分析>

条件③は満たしているが、条件①②を満たしていない。

自分の考えを書くことはできるが、考えの根拠を明確にすることや、自分の考えの根拠として必要な情報を、資料から抜き出すことに課題がある。

指導改善のポイント

必要な情報は目的に応じて変わるため、目的を明確にした上で資料を読み、必要な情報を抜き出すことが重要である。

学習指導に当たっては、児童が引用のねらいを自覚できるよう、教師と児童との間で共有しておくことが大切である。また、引用する部分を選んだ意図や目的を交流するなど、自分の考えを言語化し、明確にする機会を設けることも効果的である。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。
また、

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをささるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。
(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

四 花山さんは、「集めた情報」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを「花山さんの文章の続き」に書いています。あなたが花山さんなら、
どのように書きますか。おどの条件に合わせて書きましょう。

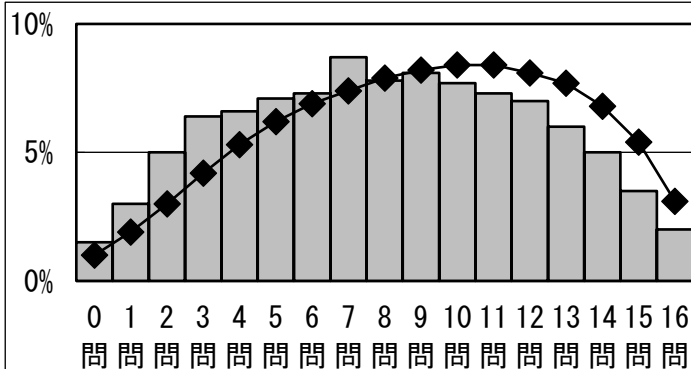
<大問2四 抜粋>

小学校算数

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.1/16	50
全国（公立）	9.0/16	56.4



東大阪市
全国（公立）



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	55.6	61.1
	B 図形	4	46.3	55.3
	C 測定	1	72.5	78.1
	C 変化と関係	3	35.3	41.1
	D データの活用	4	43.0	48.6
評価の観点	知識・技能	12	54.0	60.1
	思考・判断・表現	4	39.7	45.4
問題形式	選択式	5	50.9	56.0
	短答式	8	53.2	59.7
	記述式	3	42.3	48.5

課題がある点

- 「体積の意味」や「単位分数の個数に着目して数直線上の1の目盛りを捉える」など、概念的な理解。

大問1（3） 平均正答率 東大阪市 30.0% 全国 40.1%

<正答に必要な条件>

体積の意味を理解し、1cm³の立方体を36個使ってできる高さ4cmの直方体の体積を「36」と解答する。

<多かった誤答及び誤答分析>

「144」「9」「その他の4の倍数」と解答している。36や高さの4を使った計算の答えを体積としており、体積は単位体積の立方体のいくつ分で表すことができることの理解に課題がある。

大問3（4） 平均正答率 東大阪市 58.7% 全国 68.1%

<正答に必要な条件>

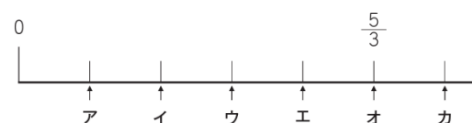
目盛りの一つ分の大きさが $\frac{1}{3}$ であることを捉え、単位分数の個数に着目して「ウ」と解答する。

<多かった誤答及び誤答分析>

「ア」と解答している。 $\frac{5}{3}$ に着目して数直線上の目盛りの一つ分の大きさが $\frac{1}{3}$ であると捉えることや、分数の大きさの理解に課題があり、数直線上の1番目の目盛りを1と捉えてしまっている。

<大問3（4） 抜粋>

(4) 次の数直線でオの目もりは $\frac{5}{3}$ です。
1を表す目もりはどこですか。
下のアからカまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

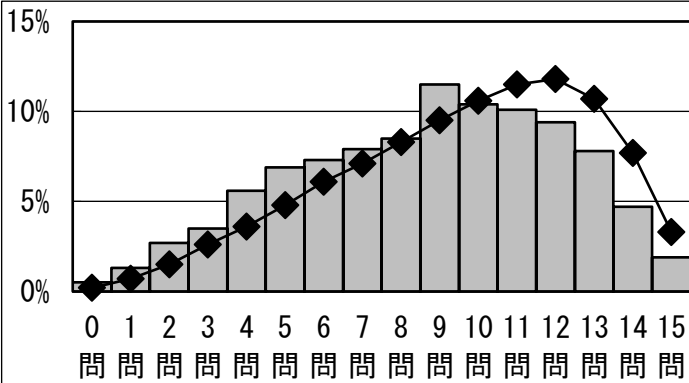
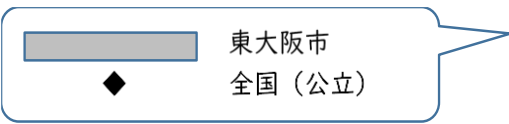


指導改善のポイント

「単位となる大きさ」を基準に「それがいくつ分あるか」に着目させる具体的な活動を取り入れることが重要である。例えば、1cm³のブロックを36個使って様々な形を作る活動を通して、形が異なっても「1cm³がいくつ分」で体積が等しいことや、 $\frac{5}{3}$ の位置を基に、目盛り一つ分の大きさを見出したり、「1(= $\frac{3}{3}$)」と $\frac{5}{3}$ の位置や大小関係を比較したりする活動を通して、分数の意味を捉えさせることなどが考えられる。これらを通して、量や数の概念的な意味理解を図ることが大切である。

中学校国語

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.7/15	58
全国（公立）	9.6/15	63.9



分類		区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
				東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	56.7	63.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	64.0	70.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	—	—
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	57.7	63.9
		B 書くこと	3	61.5	67.4
		C 読むこと	3	54.3	59.7
評価の観点		知識・技能	6	57.9	64.2
		思考・判断・表現	9	57.8	63.7
問題形式		選択式	9	67.8	72.7
		短答式	3	48.1	55.8
		記述式	3	38.0	45.5

課題がある点

●表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと

大問3 四	平均正答率	東大阪市	37.0%	全国	45.0%
-------	-------	------	-------	----	-------

<正答に必要な条件>

次の条件を満たして解答している。

- ①「相棒」と表現したことについてのよい点や改善点について、【1 段落についての交流場面②】の内容を基にして書いている。
- ②よい点や改善点について書いたことを踏まえて、今後随筆を書くときに生かしたいことを書いている。

＜多かった誤答及び誤答分析＞

条件②を満たしているが、条件①を満たしていない。

今後随筆を書くときに生かしたいことを書くことはできているが、友だちとの意見交流の内容を基にして、書いた文章を振り返り、よい点や改善点を具体的に見出すことに課題がある。

指導改善のポイント

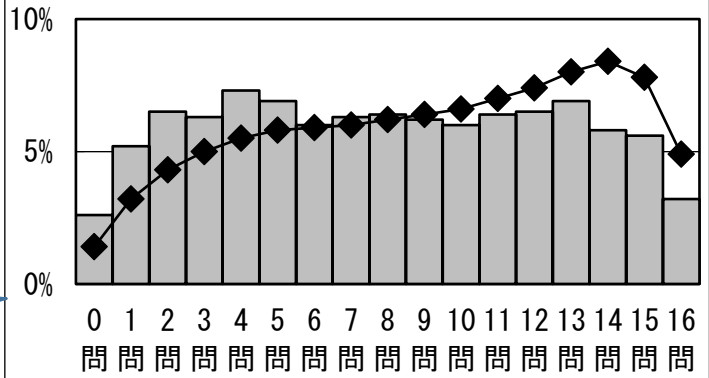
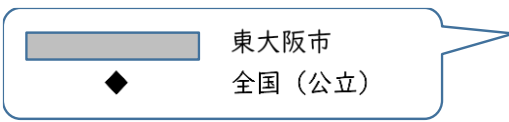
書くことの学習過程に、読み手が効果的だと感じた表現について伝え合うなど「共有」の時間を位置づけることが大切である。具体的には、読み手からの感想や助言を基に自らの文章を振り返り、良い点や改善点を見出して再推敲したり、次の書く学習にどのように生かすかを考えたりする活動を取り入れると良い。その際、交流の視点として「構成」や「表現の工夫」など、単元目標に沿った内容を生徒と共有することが重要である。

<大問3 四 抜粋>

『度客についての変遷場面①』 石井 「度客」絵を描くことが趣味だということを印象付けるように工夫したのですが、どうでもいしか。最初（の）私は「趣味がある」という文で、趣味は何だろうと知りたかったら、先を読みたくなりました。私もそう思いました。 山田	『度客についての変遷場面②』 石井 スケッチブックを「相模」と表現し「ことばどうですか」「その時の私の気持ちを相模が教えるく」とスケッチブックを人のように表現しているのが印象に残りました。 山田 スケッチブックは今の自分の気持ちが溢まっているものだから、「相模」よりふさわしい比喻があるのではないかと思います。	『メモ②』 （よい）点や改善点 冒頭で「私は趣味がある」と趣味が何かを明かさないと、読みに先を読みたいと思わせるとよくでき。 （生かしたいこと） 読者を惹くときは、書き出しの工夫をする	『メモ①』 （よい）点や改善点 （生かしたいこと）
--	--	---	--

中学校数学

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	8.0/16	50
全国（公立）	9.1/16	57.0



分類	区分	対象 問題数	平均正答率(%)	
			東大阪市	全国（公立）
学習指導要領の領域	A 数と計算	5	62.0	67.8
	B 図形	4	40.6	48.7
	C 関数	3	48.5	54.8
	D データの活用	4	45.9	53.5
評価の観点	知識・技能	12	56.3	63.0
	思考・判断・表現	4	31.4	39.1
問題形式	選択式	3	52.6	59.3
	短答式	9	57.6	64.2
	記述式	4	31.4	39.1

課題がある点

●式やグラフの意味を読み取り、事象の特徴や問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明すること。

大問6 (3)	平均正答率	東大阪市	36.9%	全国	44.6%
---------	-------	------	-------	----	-------

＜正答に必要な条件＞

A + Bの値の特徴を明らかにした過程を振り返りながら、 $A - B$ の値の特徴を見だし、「○○は、◇◇になる。」という形で、「 $A - B$ の値は、選んだ2数の差の91倍になる」のように記述する。

<多かった誤答及び誤答分析>

◇◇に成り立たない事柄を記述したり、数学的表現を使つて的確に表現することができなかつたりしている。
A+Bの値について考察した過程と関連付けて考えたり、表現したりすることに課題がある。

<大問7 抜粋>

大問7 (2)	平均正答率	東大阪市	26.8%	全国	33.9%
---------	-------	------	-------	----	-------

＜正答に必要な条件＞

グラフ、式、表いずれかを用いて y が 1000 である時の x の値を算出し、 x や y を使って説明する。

＜多かった誤答及び誤答分析＞

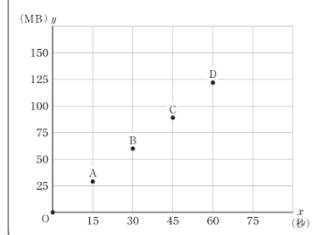
グラフ、式、表を用いることについて記述しているが、用い方を明示して説明していない。与えられた具体的な数値から必要な数値を算出したり、 x や y を使って説明したりすることに課題がある。

7 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000 MBまですることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ振り方・同じ時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間とx秒とのxのデータのデータ量をy MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



x (秒)	0	15	30	45	60
y (MB)	0	29	60	89	122

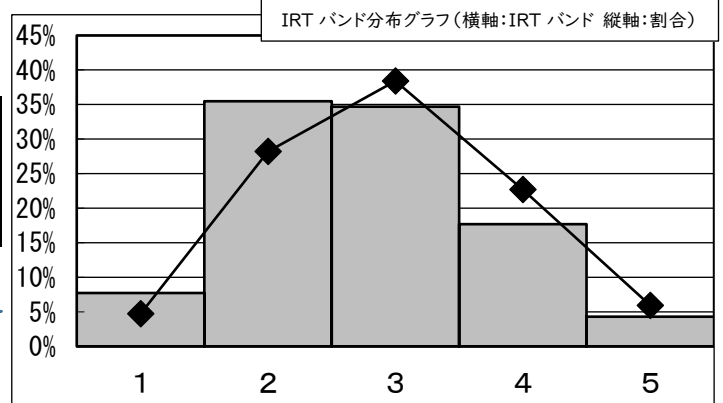
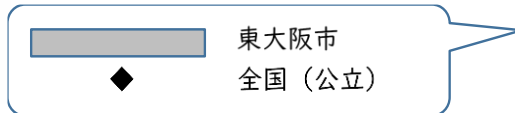


指導改善のポイント

問題解決の「方法」に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考えたり、数学的な表現を用いて伝え合ったりする学習活動を充実させることが重要である。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられる。また、まとめた問題解決の方法を別の条件や新たな場面に適用させることで、統合的・発展的に考察できるように指導することが大切である。

中学校英語（3技能）

	平均正答数	平均正答率(%)
東大阪市	3.3/7	平均正答率なし
全国（公立）	3.7/7	



課題がある点

●社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと。

大問 10 (1) 平均正答率 東大阪市 41.6% 全国 47.5%

<正答に必要な条件>

“I think …”や“we should …”などの表現から書き手が伝えたい要点を捉え、選択肢「2」と解答する。

<大問 10 (1) 抜粋>

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。

<多かった誤答及び誤答分析>

具体例を述べている選択肢「3」や「4」と解答している。

“many” “good”といった主観を表す形容詞や、

“We can find …”という助動詞を使った表現から、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性がある。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly. Do you think my opinion is good?

<解答欄>

- ☐ 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- ☐ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- ☐ 3 There are many good videos for learning English.
- ☐ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

大問 10 (2) 平均正答率 東大阪市 22.4% 全国 27.8%

<正答に必要な条件>

次の条件を満たして解答している。

- ① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
- ② 条件①の理由を書いている。

<大問 10 (2) 抜粋>

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えたのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

<多かった誤答及び誤答分析>

自分の考え(条件①)を書くことはできているが、理由(条件②)に関わる記述がない。

書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、書くために必要な表現が身に付いていないことなどが考えられる。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly. Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください
Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えたのか

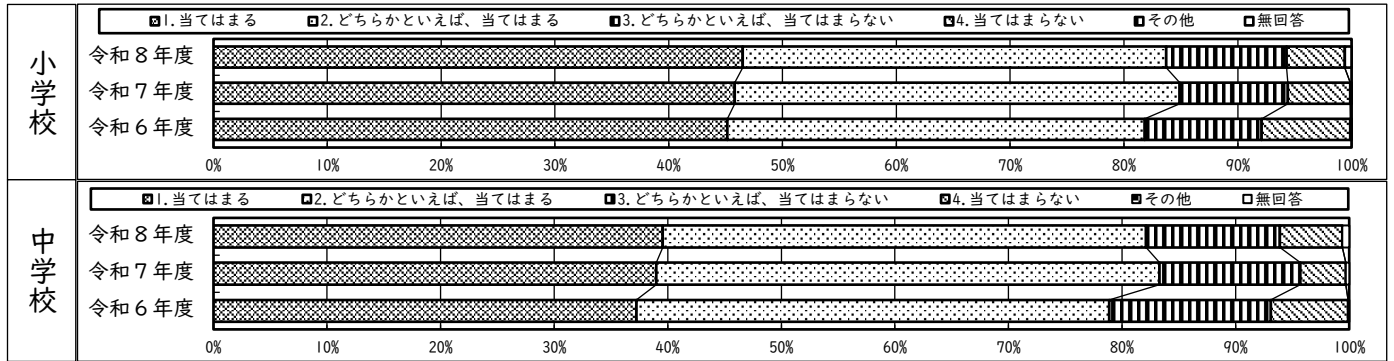
指導改善のポイント

文章を「読む」活動を行うに当たっては、文と文との関係を把握することなどを通して、文章から取り出した複数の情報を比較し、書き手が最も伝えたいことを捉えることが重要である。文章を読んで、要点を捉えるためには、文章を読んだ後で、「書き手が最も伝えたいことは何か」、「なぜそう考えたのか」をペアやグループで話し合う活動などが考えられる。

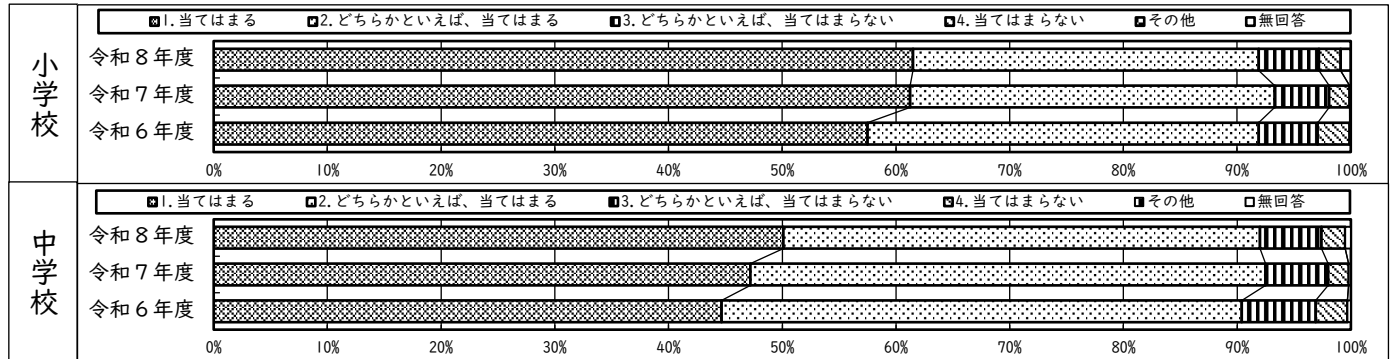
「書く」力を高めるには、自分の考えをメモに整理させることや、簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことが有効である。さらに、読み手に伝わるように正確に書く力を高めるために、生徒同士でコメントし合うことや、教師からのフィードバックを通して表現を深めさせる。その際、自分の考えとその理由が伝わるかという視点から、語句の選択、語順などの文構造、動詞の活用、語の綴りなど、言語面と内容面の両面からフィードバックすることが求められる。

児童生徒質問調査 経年変化 <自己有用感に関すること>

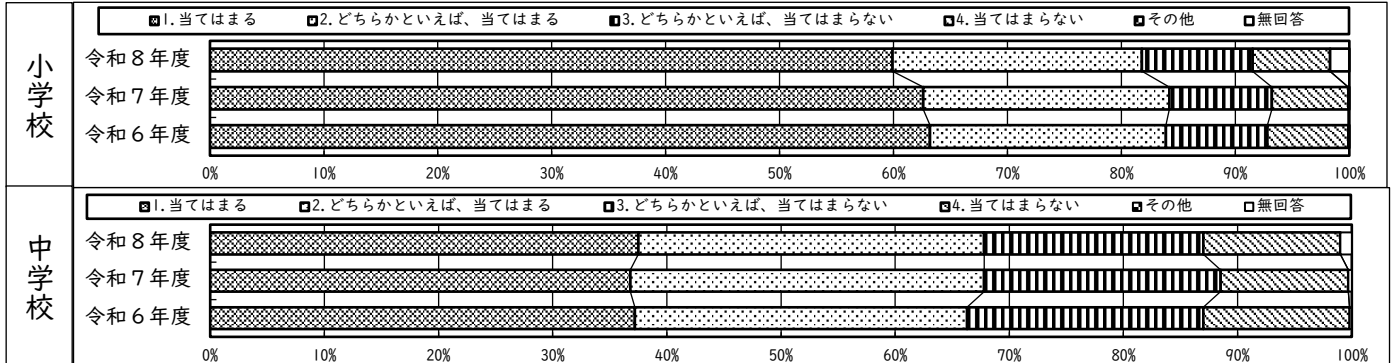
① 自分には、よいところがあると思いますか



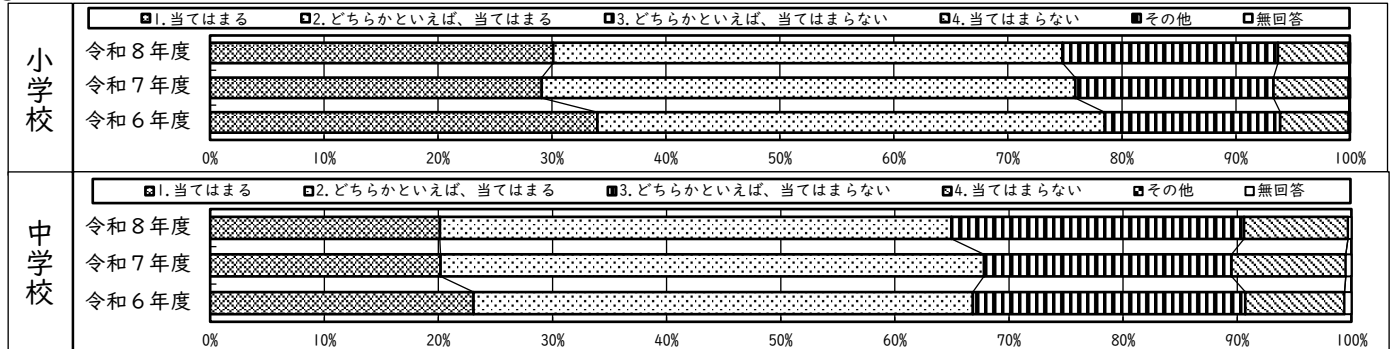
② 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか



③ 将来の夢や目標を持っていますか



④ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

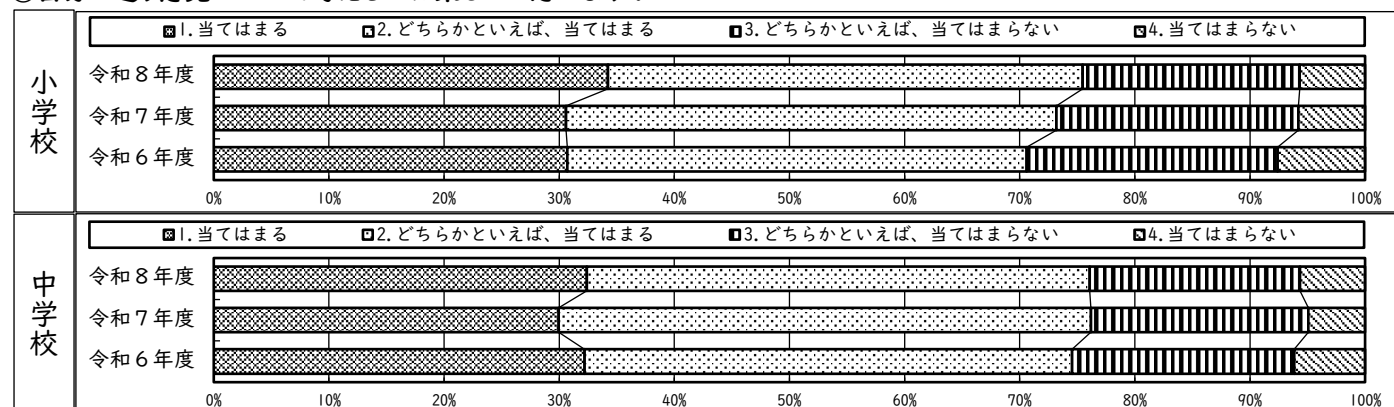


①②については、小・中学校ともに強い肯定的回答率が増加している。先生方が子どもたちを認めたり励ましたりしながら、自己肯定感を高める指導を継続的に行っていることが伺える。③④については、昨年度より肯定的回答率（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）の合計が微減したものの、依然として高い傾向にあり、子どもたちが自己の将来に対するビジョンや目標、社会貢献に対する意識を持っていることが伺える。

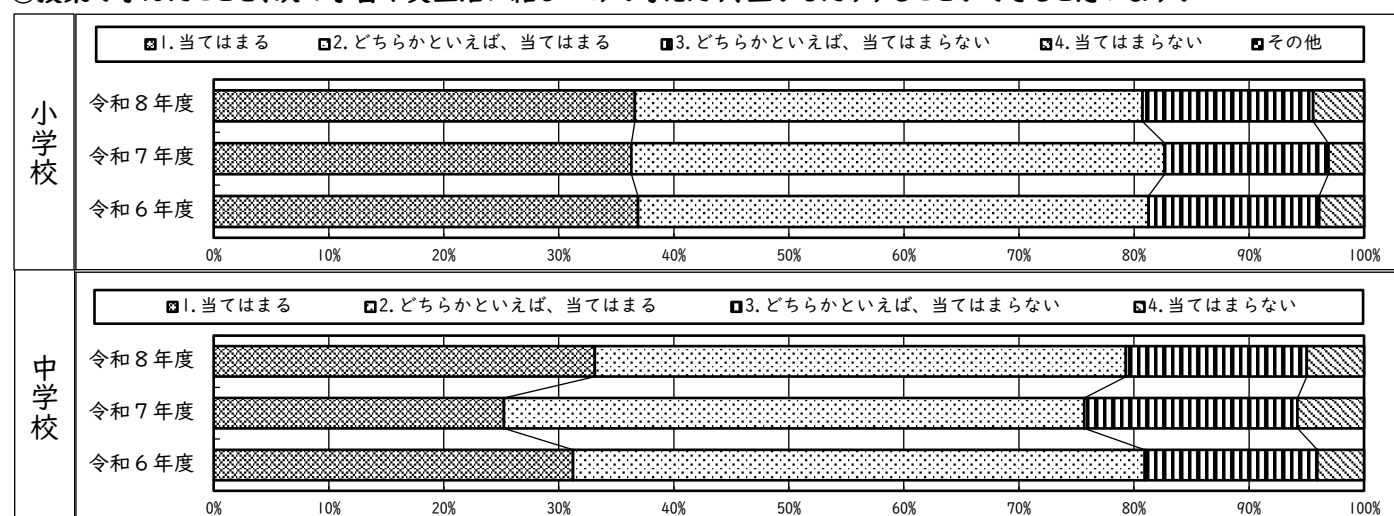
今後も、子どもたちを認めたり励ましたりしながら、一人ひとりが自分の個性や良さを伸ばせる取組みを進めることが求められる。また、子どもたちが目標やビジョン、地域貢献への意識を持って、主体的に課題を追究できる力を育む取組みを進める必要がある。

児童生徒質問調査 経年変化 <学び方や家庭学習習慣に関すること>

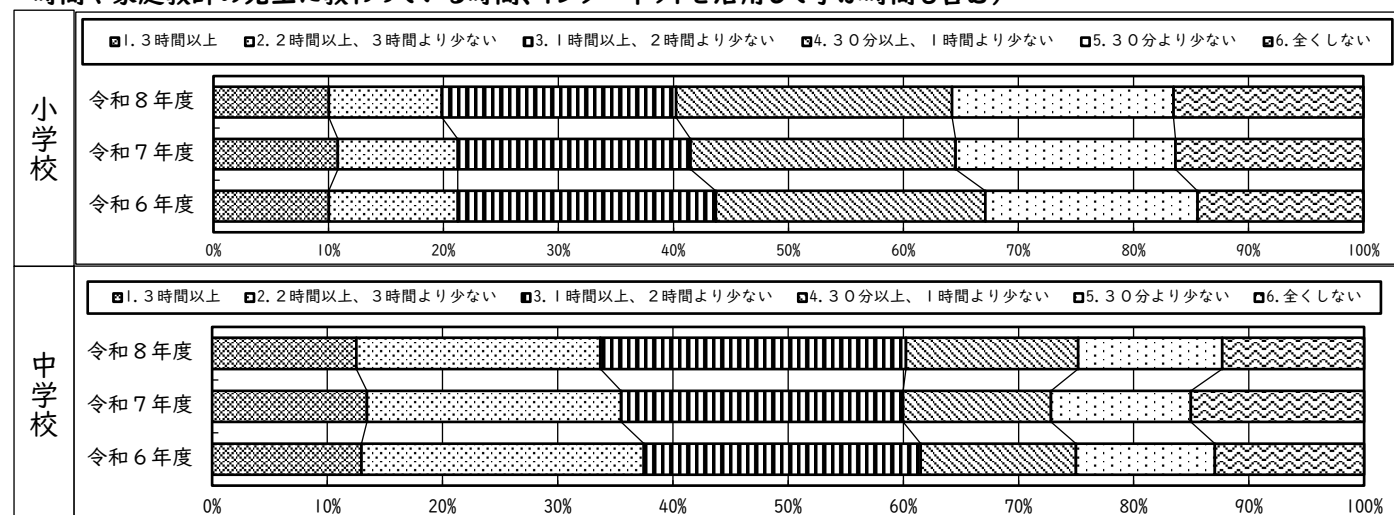
①自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



②授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか



③学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



①②については、強い肯定的回答率（当てはまる）が小・中学校ともに増加している。友だちと意見交換しながら協働的に学ぶ楽しさや、学ぶことの価値を実感しながら学習に取り組む姿勢が育まれていることが伺える。③については、「2時間以上」と回答している児童生徒の割合は小・中学校ともに減少している。一方、中学校では「30分より少ない」と回答している生徒の割合が減少しており改善傾向が見られるが、学びの価値や有用感の高まりが、家庭学習時間の増加には十分結び付いていない状況も見られる。

今後も、すべての教育活動において ICT も活用しながら、家庭学習と学校での学びを円滑につなぎ、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図る。また、探究心（知的好奇心やワクワク感）を育むとともに、身に付けた力を実生活に生かす喜びや学びの価値を実感できる取組を一層推進する必要がある。

令和8年度 全国学力・学習状況調査概要

調査目的 教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の状況との関係において、児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査日 令和8年4月23日(木)
※中学校英語 CBT 調査「読む・書く・聞く」：4月20日(月)～23日(木)
「話す」：4月24日(金)～5月29日(金)

調査対象 小学校6年生/義務教育学校6年生、中学校3年生/義務教育学校9年生

調査内容 小学校：国語・算数
中学校：国語・数学・英語【CBT調査】
小中共通：児童生徒質問調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
学校質問調査
（指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

調査問題
➤ 学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題された。
➤ 各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージが発信された。

今年度調査の特徴
➤ 中学校英語（4技能「読む・書く・聞く・話す」）をCBT方式で実施。「話す」は音声入力による対応。
➤ 異なる問題でも共通の尺度で測定できるIRT方式によって、学習到達度や経年変化を客観的に把握。

調査結果の取扱いに関する配慮事項
調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど、教育上の効果や影響等に十分配慮すること。

関連サイト

- 令和8年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について
<https://www.nier.go.jp/26chousa/26chousa.html>
- 東大阪市学校教育基本目標・重点目標
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/cmsfiles/contents/0000005/5027/R8kihonmokuhyojutenmokuhyo.pdf>
- 東大阪市の学校教育
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/kosodate/cmsfiles/contents/000011/11826/R8gaxtukoukyouiku.pdf>
- 東大阪市教育局に関する大綱(改訂版)
<https://www.city.higashiosaka.lg.jp/cmsfiles/contents/0000016/16422/taikoukaitei2.pdf>

